

地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー系統補助路線） に係る事業評価について

内 容：京丹後市内において国の補助制度（地域公共交通確保維持改善事業）を活用して運行してきたフィーダー系統補助路線である峰山四辻線ならびに峰山延利線について、令和５年度（R4.10～R5.9）の運行に対する事業評価を行う必要があるため、別紙資料のとおり的事業評価とし、国へ報告してよろしいかお諮りするもの。

補助事業名：地域公共交通確保維持改善事業
（フィーダー系統補助）

路 線 名：峰山四辻線、峰山延利線

運行事業者：丹後海陸交通株式会社

運 賃：上限200円

フィーダー系統補助路線の運行実績および事業評価について

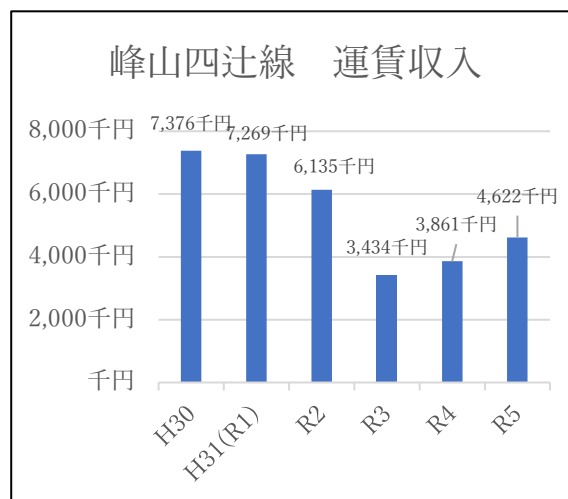
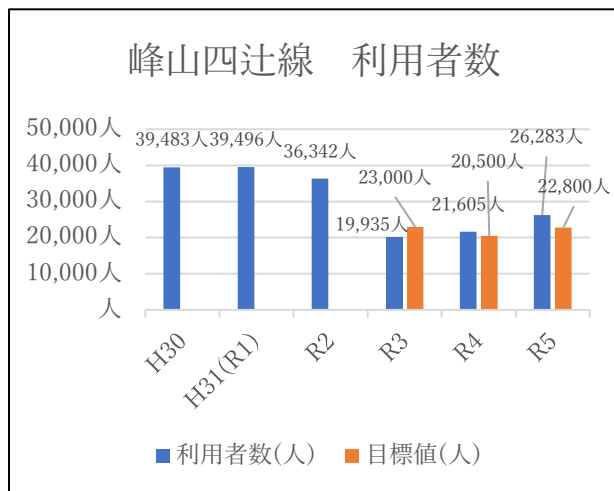
1 フィーダー補助路線について

京丹後市内において国の補助制度を活用して運行してきた延利線（峰山-小町公園）、ならびに与謝の海病院線（峰山-与謝の海病院）については、国の地域幹線系統補助金の対象外となったため、路線の見直しも含めて「峰山延利線」「峰山四辻線」と路線名を改め、地域内フィーダー系統補助路線として、令和2年10月より運行している。

※フィーダー系統バス：交通網において、幹線（主要な路線）と接続して支線の役割を持って運行される路線バスないしその路線をいう。

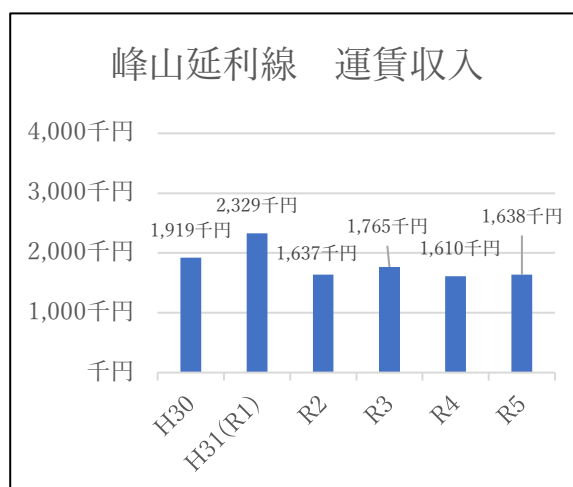
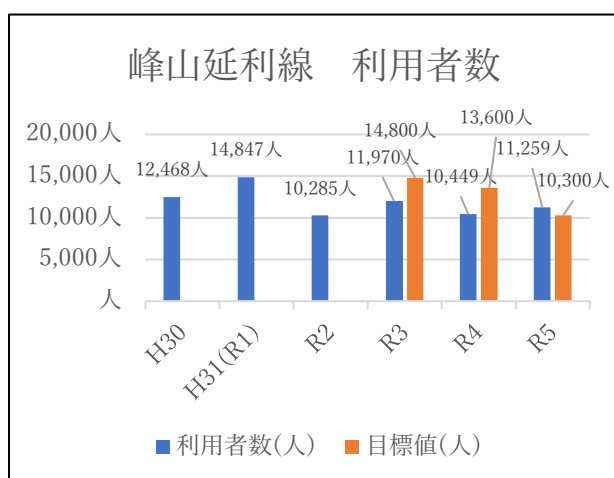
2 フィーダー系統補助路線の運行実績について

（1）峰山四辻線 令和5年度（R4.10月～R5.9月）実績



※R2までは与謝の海病院線としての数字

（2）峰山延利線 令和5年度（R4.10月～R5.9月）実績



※R2までは延利線としての数字

3 乗降調査について

■調査日 令和4年11月10日（木）、20日（日）、22日（火）

令和5年6月11日（日）、14日（水）、18日（日）

■調査便 峰山四辻線および峰山延利線の全便（丹後海陸交通㈱の協力を得て実施）

4 フィーダー系統補助路線に対する評価

対象期間における年間利用者数（2路線合計）は37,542人、年間運賃収入（2路線合計）は6,260千円であった。路線ごとの目標値と実績は次のとおり。

路線	目標値	実績	達成率
峰山四辻線	22,800人	26,283人	115%
峰山延利線	10,300人	11,259人	109%
合計	33,100人	37,542人	113%

○峰山四辻線

新型コロナウイルス感染症による外出控え等の理由で利用者が低調であったR4の実績値より5%の利用者回復の見込みで目標設定を行った結果、実績は達成率115%となった。コロナ前の水準には戻らないが、与謝野町への越境利用者も高校生を中心に一定数利用者がいるため、通学には欠かせない路線となっている。利用状況に応じて平日と休日のダイヤ変更を試みたが、まだまだ日中の便や、土日の便においては利用者のない便もあるので、引き続き利用していただけるダイヤの設定や利用促進が検討課題である。

○峰山延利線

峰山四辻線と同様に新型コロナウイルス感染症による外出控え等の理由で利用者が低調であったR4の実績値より5%の利用者回復の見込みで目標設定を行った結果、実績は達成率109%となり、前年度より利用者も回復している。延利方面や善王寺・長岡地域を走る唯一のバス路線であるため、高校への通学、買い物等には欠かせない路線として、一定の利用があると分析している。学生の利用以外に利用いただける時間設定にするため、平日と休日のダイヤ変更を試みたが、まだまだ日中の便や、土日の便においては利用者のない便もあるので、引き続きデータに注視しながら、他の路線との接続も考慮したうえで、利便性の向上を図る必要がある。

5 今後の対応方針

年に2回の乗降調査に加えて、利用者への聞き取り調査などを行い、利用者ニーズに即した路線の確立等により生産性の向上を図るとともに、バスの乗り方教室など地道な利用促進の取り組みを行い、バス停の新設や移設、場合によってはルート変更も視野に入れ、利用しやすい路線、ダイヤ設定に努めていきたい。また、運転手不足など路線の維持が難しい状況の中で、路線の抜本的な見直しの検討も必要である。